

HAPPY NEW YEAR! 2020

2020年1月 今月のデポーション by ビル・ウィルソン

「みことばを説くだけでなく、生活に生かす」



さあ、2020年です！ここまでの40年間で振り返るとさまざまな場面が走馬灯のように頭の中を巡ります。活動を始めたばかりのこと、数々の苦勞、世界中でみことばを伝え続けた長期間のツアーなど。

そして、今月皆さんに何を伝えようかと考えていた私の心に、あるシーンがよみがえってきました…

その週末も私は礼拝説教に招かれてある教会に行っていました。礼拝が始まるのを待っていると、一人の男性が礼拝堂に入ってくるのが見えました。人々は顔を寄せ合ってひそひそ話をしながら、ホームレスのような老人が聖所に入ってくる様子を凝視しています。そしてその人が最後列の椅子に座ったのを見届けると、皆、あからさまにこの残念な事態について話し合っていました。私を招いて説教を聴こうとしていた人たちです。

教会の執事が男性のもとに行き、何か話しかけてすぐにその場を去りました。するとしばらくして、一人でやってきたその男性はのろりと立ち上がり、きまり悪そうに首を垂れて、くたびれた上着を手にしました。その人は礼拝堂を出て行ったのです。誰もが予想した通り。

この愚かな光景を、私は決して忘れることはないでしょう。非常に胸が痛みました。この人たちは、教会におられるイエスご自身に出て行ってくれと頼んだも同然だと思いました。

わかっていただけでしょか…きれいごとは誰にでも言えるのです。あなたには今、どんな魂もどんな機会も等しく尊いことを、はっきり認めていただきたいと思います。

集会もいいでしょう。しかし、みことばを説いたり聴いたりするだけでは駄目なのです。みことばが生命の源であり真実であることは確かですが、それを日々の生活の中に生かさなければ神の目には何の意味もありません。あなたに実行していただきたいのは、日曜礼拝で皆でうなずき合って終わるのではなく、みことばを自らの生き方に取り込むことです。福音を聴くだけで満足してはなりません。人生設計のための土台としていただきたいのです。さあ、新しい一年の始まりです。過去の悪習慣を捨て去り、福音によって示される道を生きるスタートを切るのに、これ以上のタイミングはありません。

アッジの聖フランチェスコは言いました。「常に福音を宣べ伝えなさい、もしも本当に必要ならば言葉も用いて。」

教会は、言葉を用いて福音を宣べ伝えるだけでなく、それを実践する覚悟を持たなければならない、と私たちはわかっているはずですが。「教会」とは誰のことですか？ 私たち、そう、あなたや私のことではないですか！ 多くの人たちができると思う領域を超えて、私たちの恐怖心も乗り越えて、実践する教会となるかどうかは私たちににかかっているのです。

今年、ずっとみことばを伝えたいと思ってきた人に福音を宣べ伝えるチャンスがあなたにはあるはずですが。あれこれ言わずに実行してみましょ。意外にすんなり受け入れてくれるかもしれません。

「すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』」

—マタイの福音書第25章40節—

心をこめて

創立者・主任牧師 ビル・ウィルソン

多くの方々から、このデポーションへの反響をいただきました。

さらに役立てていただけるよう、2月からは月2回(レポートとHPで)の配信とします。祝福がもたらされますように。

ビル・ウィルソン師 来日決定！

セミナー会場を募集中！

インターンに参加しませんか！

アメリカ・フィリピンのメトロインターン生を募集中です。

詳しい内容は、3ページをご覧ください。

今月号の目次

P2~3…お知らせ

P4~5…ケニアツアーご感想

P5…ビル・ウィルソンセミナー
2020 会場募集

P6…日本事務所からのお知らせ

INFORMATION

スポンサーの皆様へ、メトロからお知らせがございます

2020年の

スケジュールをお知らせします

今年のスケジュール（予定）を一覧表にしました。ご支援いただいている国の子どもさんへのプレゼントのご計画や、イベントのご参加のご予定をお考えいただくためにお役立てください。それぞれのキャンペーンの前には、早めにご案内をお送りしますので、メトロレポートを毎月必ずご確認ください。

月	日本の予定	アメリカ	ケニア	フィリピン
2		イースターバスケット ご案内		
3				学用品・奨学金ご案内
4	フィリピンツアー	サマーキャンプご案内		サマーキャンプご案内
5	秋期インターンご案内			
6		ブックバッグご案内		
7	セミナー開催		サマーキャンプご案内 クリスマスプレゼント ご案内	
8	ケニアツアー			
9	春期インターンご案内	ラブボックスご案内		クリスマスプレゼント ご案内
10	アメリカツアー	OHHご案内 クリスマスプレゼント ご案内	OHHご案内 学用品ご案内	OHHご案内
11				
12				



いずれも強制では
ありません。
ご都合に合わせて
ご参加ください。

プレゼント一覧表

サポートしている子どもの国のページをご覧ください

PHILIPPINES
フィリピン

フィリピンの子どもにはプレゼントを贈送することはありません。フィリピンでは、親しみのために多くの子どもたちが学校や習い事を通して多様な活動を行っています。子どもたちの成長をサポートするために、メトロは、フィリピンの子どもに、さまざまなプレゼントを贈ります。

2020年のキャンペーン
10,000円 贈り物の5月25日(日)

誕生日プレゼント
ご家族が大切にしている子どもの誕生日は、親しい人から贈られるプレゼントが、子どもにとって特別な思い出になります。メトロは、誕生日に子どもに贈るプレゼントとして、子どもたちの成長をサポートするために、メトロは、フィリピンの子どもに、さまざまなプレゼントを贈ります。

クリスマスプレゼント
贈り物の10月30日(日)

メトロは、子どもたちの成長をサポートするために、メトロは、フィリピンの子どもに、さまざまなプレゼントを贈ります。

2020年度保存版 日本語

プレゼントのご紹介

ケニア用……2ページ
アメリカ用……3ページ
フィリピン用……4ページ

思いやりは、贈り物には載せませんが、あなたから子どもへの贈り物は「自分たちのために生きてくれる人へ」「自分を助けてくれる人へ」自分自身だけでなく、他人の存在を感じることは、何よりも大切なことです。子どもたちの成長をサポートするために、メトロは、フィリピンの子どもに、さまざまなプレゼントを贈ります。

お問い合わせ先：メトロワールドチャイルドジャパン
TEL: 03-5561-0274 FAX: 03-5561-0101
email: metrojapan@mission.or.jp

スポンサーの皆さんには、先月の12月号で2020年のプレゼント一覧表をお送りしました。1年間保管をお願いします。サポートをしている子どもへの誕生日プレゼントなどをお考えになる時は、必ずこの内容をご確認ください。

プレゼントは、日本事務所で受け付けています。誕生月の1月前の25日までに電話・FAX・メールで、次の例のようにご希望をお知らせください。

例)「フィリピンの子どもに、誕生日プレゼントとして食料品大セット(6000円)を贈ります。口座引き落としで手続きしてください」

アメリカの子どもにのみ、メトロの本部宛に直接プレゼントを送ることもできます。詳しくは、一覧表のアメリカのページをご確認ください。

スポンサー代金改定を ご了承の方は 日本事務所までご連絡ください



メトロ本部では、世界中の物価の上昇に対応するために、子どものスポンサー代金を昨年からひと月 5,000 円に変更しています。

たくさんの皆様が、スポンサー代金の引き上げのご連絡をくださいましたことを心から感謝申し上げます。

もし、まだご検討いただいていない場合は、ぜひご検討の上、日本事務所までお知らせください。

こちらで**自動的に引き上げはいたしません**ので、

大変お手数ですが、日本事務所までご意向をお知らせくださいますようお願い申し上げます。

ご了承の方は、下記までご連絡ください。

TEL : 03-3561-0174 FAX : 089-925-1501

メール : metrojapan@mission.or.jp

メトロの教会学校(研修)に 参加しませんか？

2020 年度春期のインターンシップ(研修制度)の期間は以下の通りです。すぐにお申し込みください。



●マニラ (フィリピン)

期間:「春期」2020年2月4日(火)~5月21日(木)

「秋期」2020年8月下旬~12月中旬

費用:登録費 15,000 円+食費および小遣い(研修費は無料)

その他:日常会話程度の英会話力が必要です。

●ニューヨーク (アメリカ)

期間:「春期」2020年3月12日(木)~7月31日(金)

「秋期」2020年8月13日(木)~12月16日(水)

費用:登録費 15,000 円+宿泊と食費込みで 3,000ドル+小遣い

その他:英語でのコミュニケーションが必要です。

どちらも4ヶ月間のプログラムで、研修施設での共同生活になります。

英語が得意でない方は、フィリピンがお勧めですが、日常会話程度の英語力と度胸が必要です。

また、英語の語学力その他の確認が必要ですので、必ず事前に万代牧師または現地スタッフによる面接を受けていただきます。

ご希望の方は、下記までご連絡ください。

TEL : 03-3561-0174 FAX : 089-925-1501

メール : metrojapan@mission.or.jp

※メールには必ずご返信しますので、返事がない場合は迷惑メールフォルダやごみ箱をご確認の上、見当たらない場合はお問い合わせください。

※FAX は送信済の場合は必ず受信していますので、ご返信はしていません。

ケニア視察ツアーのご感想

先月号に続き、高嶋様からのご感想をお届けします。

日曜学校

メトロ・ケニアの日曜学校は、他の国のメトロの日曜学校とは少し違います。小学校の授業の一環として取り入れられているため、メトロのスタッフが小学校を1日に何校も回って行っています。どこの小学校に行っても感じたことは、子どもたちが静かに話を聞く習慣が身についていることでした。たとえば、5000人の子どもたちが校庭に集まった小学校がありました。昨今の日本では大騒ぎになります。でもケニアでは、誰一人おしゃべりをしません。それはどこの学校でも見られました。子どもは大抵、午後や戸外に出ると集中力が落ちて騒々しくなりますが、ケニアの子どもたちは午後の暑く照りつけている、しかも一番眠くなりやすい時間に行われた日曜学校でのお話も静かによく聞いていたのです。驚くべき集中力でした。



でも、それだけではありません。彼らにはその話をどうしても聞きたいという気持ちがありましたし、聞かなくてはいけないという必要に迫られている印象も受けました。みんな制服を着ているのですが、よく見ると穴だらけで、靴もカバンもまともなものを持っている子は誰もいませんでした。また、メトロは給食支援もしているのですが、その給食も全校生徒の3分の2しか食べられないという現実も目の当たりにしました。そして、その給食はその子達にとって一日の唯一のご馳走なのです。こうしたことから、学校に通っているからと言って、ある程度裕福であるというわけではないことがわかり、その貧しい生活の中に生きている子どもたちだからこそ、自分たちには福音が必要だとわかっていることが伝わってきました。

また、ある学校では、日曜学校をはじめると、学校の塀の上に子どもたちが数名登っていました。「早く降りておいでよ、聖書のお話しがはじまるよ」と私が声をかけると、「僕たちはこの学校の生徒じゃない。学校に行けないから、ここでいつもメトロの日曜学校をこっそり覗いてるんだ。」と話してくれました。学校に行きたくても行けない子がたくさんいることは承知の上でしたが、その子たちが塀の上に登ってまで福音を聞こうとしている姿に、私は心が打たれました。

必要なのです。そして彼らは知っているのです。福音が自分たちにとってどれだけ大切なものであるのかということ

を。私の魂にも、もっと飢え渴きが起り、彼らが日頃見ている主の業を体験できるようにと祈りました。

「草はしおれ、花は散る。しかし、私たちの神のことは永遠に立つ。(イザヤ 40:8)」



スラム街

ケニアは人口約5000万人、そのうちプロテスタントが40%、カトリックが30%のキリスト教国です。そして失業率が60%という厳しい状況ゆえに、アフリカ大陸一のスラム街を持ち、地域によっては電気が通っていないどころか、水道やガスなどもなく、多くの家は床がないので、土のままという経済的に非常に貧しい国でした。



ある地域では、トイレのないことが人々の健康状態をいっそう悪くしています。周りは広い野原ですから、どこでも用を足します。雨が降るとそれが流されて水場に集まります。その水を家庭用水に使うのですから、健康でいられるわけがありません。下痢が悪化して死ぬこともあります。「アフリカでは命が安い」と言う人がいました。簡単に人が亡くなるからです。「命は神様のものだから、いつ終わりにするかは神様が決めることだよ」と言って、死を受け入れ、「人間にはどうすることもできないことだ」とつぶやかれた方の背景に、死が常に身近であることを感じました。

また、私たちはスラム街に住む一軒のお宅を訪問しました。日本人が里親支援をしているご家庭に伺ったのです。中は真っ暗で小さな土間のような空間があり、そこに家族五人で暮らしているとのこと。里子の女の子は「将来は医者になりたい」と恥ずかしそうに夢を語ってくれました。そのご家族に万代牧師が祝福の祈りを捧げた後、一人ずつ握手をして短いけれど豊かな時を過ごすことができました。



帰り道、そのスラム街では路地にしゃがみこんで論議をしている男性陣をよく見かけました。その中の一人は、酔っ払って激しい動作を繰り返していました。聞くところによると、その方の奥さんはいつも殴られ、蹴られ、罵倒されて、無職の旦那さんから自分の働いたお金を取り上げられているそうです。その奥さんはこう言ったそうです。「私は簡単に別れたりはいらないよ。これからもあの人とやっていくよ。優しいところもあるんだよ、たまにだけだね。私はあの人のおういところを掘り出すのさ」…生活だけでも苦しいはず。それなのにそんなことが言えるなんて現場を目の当たりにした私には、きれいごとではすまされ

ない、と苦しくなりました。同時に、諦めずにほんの少しの可能性にかけて生きている姿勢に感動しました。いつも死が身近である人々の暮らしの中には、屈強な何かが育まれていると感じ、豊かな日本で生きる私がここから学ぶことは、まだまだありそうです。「あなたがたが知っているとおりに、信仰が試されると忍耐が生まれます。(ヤコブ1:3)」



高嶋様のご感想は、来月号に続きます。
お楽しみに！



ビル・ウィルソンセミナー 2020

今年も、ビル・ウィルソン師による日本セミナーが開催されます！

ビル・ウィルソン師の来日予定期間は、6月27日から7月6日の日程です。現段階でのセミナーの開催場所は未定です。ご推薦の会場がありましたら、日本事務所までお知らせください。

教会、その他の会場でのセミナー開催をご希望の場合は、日程の調整が必要です。できるだけ早くご連絡ください。

過去には、東京・大阪・沖縄・京都・神奈川・愛知・福岡・岐阜・松山・神戸・札幌など、様々な都市でセミナーが開催されました。ぜひ今回も、日本中で一人でも多くの方にメトロの働きをお伝えできるよう、ご協力ください！

セミナーの会場と日程が決まりましたら、お知り合いの方を誘って積極的にご参加ください。ブルックリンのスラム街で、無謀とも思える働きを始め、40年足らずで世界規模の働きにまで成長できた信仰の秘訣は、全ての人々の人生の歩みに大きなヒントを与えます。



日本事務所からの重要なお知らせとお願い

！子どもと皆様を守るために

ネットの普及により、個人情報の保護は想像以上に難しくなっています。子どもに手紙を送る際は、ご自分の苗字と住んでいる地域名を、記入しないようお願いします。

- (例) × Hi ! I'm Taro Yamada. I'm live in Tokyo.
× こんにちは。山田太郎です。東京に住んでいます。
○ Hi ! I'm Taro. I'm live in Japan.
○ こんにちは。太郎です。日本に住んでいます。

必要以上の情報は悪用されたり、ネットで探し出されたりします。皆様の安全のために、友だち申請などメトロを通さない連絡には返事しないでください。メトロでは、長年にわたる様々な経験により、子どもとスポンサーの方々双方にとって最善の対応を心がけています。

！手紙の同封物のお願い

子どもたちへ、誕生カードやクリスマスカードなどをお送りいただき感謝申し上げます。手紙に同封いただく物についてお願いがあります。

シールやしおりなどを同封していただいて構いませんが、明らかに品物が入っていることがわかるものはご遠慮ください。途中で開けられて没収されたり、盗まれたりする危険があります。

必ず、23.5cm×12cm×1cm 以内の封筒に収まるようにご準備ください。また、全体の重さは50g 以内でお願いします。

封筒のサイズやプレゼントの重さによっては、返品させていただく場合がございますことをご了承ください。

手紙の翻訳について

お送りしています子どもからの手紙は、本部から送られてきたものに間違いがないかチェックをした上で皆様にお送りしています。

現在、基本的には子ども個人からの手紙やカードに翻訳をつけておりません。ご希望の方は、写メや FAX などご希望の言語(日本語と韓国語)と共にお知らせいただきましたら、翻訳してお送りします。本来は、すべて翻訳してお送りすべきところですが、メトロの働きはすべてボランティアの協力で行っておりますので、手が行き届かず申し訳ございません。

毎回翻訳をご希望の場合もお知らせください。最初から翻訳したものを同封してお送りします。日本語と韓国語のみご対応できます。

新年おめでとうございます！

昨年もたくさんの皆様に支えられて働きを続けることができましたことを心から感謝申し上げます。

メトロの働きは、すさまじい勢いで世界各地に広がり、今回のクリスマスには、昨年をはるかに上回る、27万5千人以上の子どもたちに福音と共にプレゼントを渡すことができました。ご支援に心からお礼申し上げます。

日本事務所でも、昨年は初めてのケニアツアー開催や新しいボランティアスタッフの参加など、大きな変革を迎えました。これからさらに多くのスポンサーの方々と共に、世界にも日本にも福音の種を蒔くために前進し続けます。

皆様の変わらぬご支援とお祈りに心から感謝し、この新しい1年が、主の御業を実体験する日々となりますようお祈りします。

日本事務所代表 万代栄嗣(まんだい えいじ)



メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061
東京都中央区銀座 4-5-1
教文館 6階 TFC内
電話 03-3561-0174
FAX 089-925-1501
メール metrojapan@mission.or.jp
URL <https://metroworldchild.jp/>



すべてのお振り込みは、同封の郵便振替用紙をご利用いただくか、下記宛にお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン